

土居文子さん 100歳のお祝い



▲百寿の土居さん(前列右3)を囲んで



▶鯛の尾頭付き

8月19日、淡路ふくろうの郷に入所されてお祝いの土居文子様の百歳をお祝いの会が開かれました。

これまでも、百歳を迎えられた方をお祝いする会は何度も開きましたが、ろう者百歳をお祝いする会を開いたのは土居さんでした。このような貴重な瞬間に立ち会えたことを嬉しく思います。

ご家族やご友人にも大勢来ていただき、土居様の人柄が表れているお祝い会となりました。

淡路ふくろうの郷・初ろうあ女性の百寿

8月19日、淡路ふくろうの郷に入所されてお祝いの土居文子様の百歳をお祝いの会が開かれました。

これまでも、百歳を迎えられた方をお祝いする会は何度も開きましたが、ろう者百歳をお祝いする会を開いたのは土居さんでした。このような貴重な瞬間に立ち会えたことを嬉しく思います。

ご家族やご友人にも大勢来ていただき、土居様の人柄が表れているお祝い会となりました。

2歳で耳が聞こえない事が解かり、その後苦勞

まなびあい文庫へのご意見

溢れ出した「人として生きたい」願い

戦後の時代に翻弄され、学校に行けず、手話サークルが学校だった、職人気質の寡黙なご主人を支えてきた社会的な花房さん。

12歳で聾学校を退学、家出、浮浪児で空襲を逃げ惑い生きるために窃盗しては刑務所の繰り返しだった黒崎さん。

『よくここまで気丈に生き抜いてきて...』という思いで読みました。人には言えない辛かったこと、怒りや悔しかったことを伝えることはなかなかできないことです。でも、「淡路ふくろうの郷」での暮らしの中で、「人として生きたい」という願いが言葉になり溢れ出てきたのでしょうか。

ろう高齢者が人として大切なことを取り戻していけるような環境を、入居者とともに作っていくのが私たち職員の仕事であり、使命だと思います。

「淡路ふくろうの郷」で黒崎さんに出会っていただいたコーヒー、オニオンスープとても美味しかったです。これからも元気で長生きして欲しいです。(埼玉・特養ななふく苑 速水千穂さん)

小説より奇なりー黒崎さんの人生

ふくろうまなびあい文庫⑤『黒崎時安人生を語る』では、どん底まで滑り降りてしまった黒崎さんの人生が語られています。家族や教育からの援助をうけることなく、仕事からも排除され、

浮浪者のような生活を続け、やくざの抗争にまきこまれ、スリなどの犯罪で何度も刑務所に収監。そして、16歳で終戦を迎えるという、黒崎さんの人生は障害と戦争の時代を抜きに語ることはできません。(中略)

自暴自棄にならなかつたのは、やはり、ろう者のネットとの出会いにあるように思いました。30歳の頃、やっと日雇いで働けるようになり、現在「淡路ふくろうの郷」で一一緒に暮らしているろう者の酒井さんたちと知り合いになります。また、1963(昭和38)年、36歳に「障害者手帳」の公付と「障害者福祉年金」を受給。

このように、情報を教えてもらえる知人とも出会え、公的福祉にたどりつくことができました。そして、ネットは阪神淡路大震災をへて、「淡路ふくろうの郷」につながっていきます。黒崎さんは、この文庫の最後を次のように締めくくっています。

—今は、私は淡路ふくろうの郷で酒井さんと暮らしています。これまで恥ずかしいと、心の中にしまっていた人生を、胸を張って語れるようになりとても嬉しいです。

(小坂淳子さん)

ふくろう新聞

<発行>
特別養護老人ホーム 郷の郷会
淡路ふくろうの郷 広報委員
洲本市中川原町中川原 28 番地 1
TEL: 0799-25-8550
FAX: 0799-25-8551
ホームページ
<http://www.normanet.ne.jp/hyoufuku/>

8月27日、毎年恒例の案山子10体が地域交流会の協力のもと、完成しました。骨組みのときから「今年はなかなか見え不出来になる」と。完成した案山子は確かにいい表情をしています。第10回となるふくろうふれ愛まつりを盛り上げるのに「役買ってくれそうです。」(6面)案山子の写真あり)

ご支援

主体的な谷さんの誇り・優しさ

妙子さんは昭和8年1月生まれで、夫の信義さまとは同学年です。

谷妙子様

私がふくろうの郷に入職したときのお二人は、左半身に麻痺がありほぼ寝たきりの信義さんの身だしなみを整えてあげたり、一緒にお話をしたり身の回りのお世話をするしっかり者の妙子さんと、物静かな信義さんという印象でした。

妙子さんは夫婦の洗濯物も自分でし、タクシーを呼んで買い物に行くなど、自分でできる範囲のことは自分でやるという思いを持った方でした。自分に厳しく、人にも厳しい一方でとても思いやりがあり、足腰に痛みはあっても元気に歩き、主体的に生活を送れることが誇りの人でした。そんな妙子さんの体調が悪くなり受診に行っていたのが今年3月11日。その日のうちに入院、緊急手術とな

り、以後、お亡くなりになる8月15日まで入院生活が続きました。

入院当初、妙子さんは、信義さんの身のまわりのことを気にする一方、「入居者のみんなに入院していることは黙っておいてほしい」とお話ししておられました。信義さんも面会に

は消極的でしたので、面会の都度、妙子さんにはふくろうや信義さんの様子などを、信義さんには妙子さんの様子をお伝えしました。7月28日、この日は信義さんを面会にお連れしよ

うと予定をたてていた日でした。しかし、この日も直前まで信義さんに希望を伺いました。「行きたくない」と言われました。一緒に行く山西職員が持ちも揺れていました。最終的に、今回は職員だけで面会に行くことに決めました。この日の面会時、妙子さんの状態は以前より良く、少しずつ回復に向けて状況は好転しているようで、今後、信義さんとの面会の実現も可能と思いい、妙子さんに「今度

は信義さんと一緒に面会に来ようと思っけどいいですか？」と伺うと、ぼんやりした中で妙子さんは小さく頷いてくれました。しかし、8月15日、妙子さんが亡くなったという連絡がありました。信義さんの面会は叶いませんでした。(生活援助係 中西 理恵)

家族の繋がりを再確認

はじめ風邪に似た症状で飲み込みが難しくなり、検査に行かれた谷妙子さま。そのまますぐに手術、入院となりました。

妙子さまの病気の場合、通常は発見が遅れて助からないことがほとんどですが、生活援助員の気付きや適切な受診対応の結果、一命は取り留められました。しかし、呼吸リハビリがうまく進まず、今回のように長期入院治療になりました。手術前は元気で意思表示もしっかりされ入院に対しては「仕方がない」「他の入居者には伝えなくていい」と話していましたが、入院が長引くことも体力も衰え意思表示も少なくなり、孤独だったと思います。

また、今回の入院がきっかけで、

ご家族と沢山話ができました。妙子さんから聞き取れていなかった家族関係や、信義さん家族と妙子さん家族も結婚式以来お会いしていなかったのが今回の事で交流が再開されたことなど、谷家にお嫁に迎えた家族の想いなど、さまざま場面でご夫婦は家族に大切にされていることを感じることもできました。

転院してからは、病室の雰囲気も良く、『「こなら信義さんをお連れしてもゆくりできる」と感じましたが、ついに実現できませんでした。残念ながら永眠されふくろうの郷へ帰ってきた妙子さんと対面された時、信義さんの手が自然とまだ温かい妙子さんの顔に伸びました。妙子さんの意識があるうちに会わせてあげたかったです。最期の最期まで夫としての役割を果たせるように、死亡届提出も支援しました。火葬の後もお骨を豊岡の家族へ手渡すまでを見届けてもらうことで、少しでも悔いの残らない様に対応させていただきました。

これからも谷夫婦のつながりを途絶えることなく大切にしていって、その時その時に出来る支援を続けていきます。

(健康看護係 渋谷 裕子)



▲信義さまの食事介助をする妙子さま

第19回全国聴覚言語障害者福祉研究交流集会 プレ企画(8月30日)

8月30日(日)神戸にて、プレ集会在開催され、県内の要員が40名集まりました。

この集会の始まりは、1982年にまでさかのぼります。重複・聴覚障害者等の生活の場、労働の場がなく家族や関

施設実習を通しての学びと感想

ふくろうの郷では実習生がコミュニケーション障害者となり、意思疎通ができないことへのもどかしさ、切なさを実際に感じ、聴覚障害者の気持ちがわかった。入居者の方々は何十年もこの辛さを味わってきた。時代的背景からも、優生法のある時代で結婚・出産が許されず、戦争のために十分な教育を受けることができない人が多くいた。多くの辛い経験をされてきたからか、入居者の方々は明るく表情の方が多く、温かく迎えてくれた。たとえ、手話ができなかったとしても、伝えたい、相手の気持ちが知りたいという思いが必要であると学んだ。自分の気持ちも大切であったが、温かく迎えてくれ、相手も私のことをわかってくれようとしていた。自分の気持ちだけでなく、相手をわかってあげようという気持ちも大切であるということを、コミュニケーションを通して感じる事ができた。

聴覚障害者にとって手話は音声言語である。手話ができなくても、ジェスチャー、対象物があることにより、意思疎通が可能であることを学んだ。聴覚障害者でも、生まれつきの人もいれば、中途失聴の人もいる。個性のあるコミュニケーション方法を用いる必要がある。

他職種との連携に関して、看護師が入居者の受診のために近隣の協力病院に同行する。病院スタッフと入居者の手話の通訳を行っている。実際に受診に同行し、病院スタッフが看護師に挨拶や相談している場面を見て、看護師とスタッフとの信頼関係が形成されていると感じた。また、薬剤師による薬剤の一包化や、施設での健康診断など、少し手間のかかることでも快く協力してくれる人たちがいることにより、入居者にとって最善の医療が提供されていると考えた。

これからの課題として、今までは障害を持つ人たちに対して、自分では差別・偏見を持つていないと思っていた。しかし無意識のうちに、「伝わらないから、聞こえないから」と避けていた。この実習を通して、すべての人に平等に治療を受ける権利がある。これから看護師として働くにあたり、カルテに「障害があるため意思疎通が困難」と記入しなければならぬことがあると思う。誰もが平等に治療を受けることができるように、医療従事者の意識を変えていかなければならない。この実習ではじめて自分の思いが伝わった喜びを思い出し、自分から障害者の方に対しても積極的にコミュニケーションを行っていききたい。

(関西看護医療大学…大田奈央)

大田区にも拠点を！

8月28日(金)東京都大田区議会から保健福祉委員会の10名様が見学にお越しになりました。ふくろうの郷に行くというので、事前にいろいろとお調べになっておられたようで、手話でご挨拶をしてくださったり、施設内を見学する際も「耳の聞こえない方が見やすい造りになっているんですね」など、積極的に話しかけてくださいました。

ふくろうの郷の見学スタイルは、施設の概要説明、入居者自らの生活や人語り、施設見学です。この日は大矢施設長が拠点の必要性を、入居者からは黒崎さん、竹邊さんが自分の人生を、施設見学ではこの日行われていた料理講座の様子などを見ていただきました。最後に手話を勉強していただけるという議員さんからは、手話での挨拶と「大田区でも何か考えます」とのお言葉がありました。お越しになられた議員さんはみなお若く、ここで感じたことを何かの形で実践してくれるようなエネルギーを感じました。

(事務長…橋詰)

係者が困っていたこと。念願の聴覚障害者に対応できる施設を建てる事が出来ても、ひとり一人にあった支援方法の模索に途方に暮れている施設が多くあったこと。そしてこれらの課題を「どうにかしたい！」と強く思う職員が集まり始めたことが発端であるという説明がされました。

この集会在今年まで開催され続けているのは、ひとり一人にあった支援をしていきたいという職員の思いが底辺にあるからこそだと思います。だからこそ、それぞれが持ち寄った実践レポートを基に意見交換、情報交換を行い、聴覚障害者や重複障害者、その家族が社会の一員として権利を得られるように。福祉職員や関係者にとっても実践を前に進めていけるように努めていくことが必要だと改めて考えることのできた1日でした。集会の参加申し込みは9月30日〆切です！奮ってご参加ください！ (岩林)

**淡路聴覚障害者
センター** 便り

洲本市港 2-26
洲本市健康福祉館 3階

**ろうあ者の暮らしが生かされる
手話言語条例制定を目指して**
淡路市で検討委員会が始まる

淡路市では、島内初となる手話言語条例の制定をめざし、検討委員会が始まりました。

委員は淡路市、教育委員会、社会福祉協議会、身体障害者団体、あわじ特別支援学校、当事者として地元ろう者、(社福)ひようご聴覚障害者福祉事業協会、手話サークル代表の8名です。

第1回目となる8月9日は事務局から趣旨や経過説明後、



▲紙しばいを使って話す当事者委員

ろうあ者が抱えてきた問題は「不便、不安」という言葉だけでは言い表すことができないということを、当事者委

員から自分が抱えている尊厳と人権の深刻な問題について「紙しばい」を使って意見を述べました。他の委員も具体的な事実を提示するなど、条例の理念や目的に関わる検討がされました。

一方、淡路聴覚障害者協会を主体に構成されている条例作業委員会は、淡路のろうあ者や手話が必要とする人々の暮らしに障害者権利条約が生かされる手話言語条例を求めて、前文と各条文の案を作成し検討委員会の事務局に提出しました。

2回目となる9月2日の検討委員会では、事務局の修正素案と同時に、作業委員会からの案も配布されました。当事者委員をはじめ、全ての委員による積極的で熱のこもった議論が続き、予定を1時間超えて夜の9時半過ぎに閉会となりました。

全ての市民に実りある条例にするためパブリックコメントを寄せましょう！

2回の検討委員会での議論を踏まえた条例案について、いよいよ一般の人たちの意見を求めるパ

ブリックコメントに出されます。

9月23日には、明石市障害政策担当課長の金政玉(きむ・じよんおく)さんを招いての4団体合同研修会も開かれます。ろう者、サークルの人たちも言語条例について理解を深めパブリックコメントに意見を投稿し、手話が必要とする人々をはじめ、全ての市民に実りある条例の制定を目指しましょう。

入院が長期間になるため淡路ふくろうの郷を退所せざるを得なくなった谷妙子様ですが、再びふくろうの郷へ帰っていただくためにどのような関わり方ができるのか支援体制を考えました。

患者さんと病院とのかけはし

当センターでもどう関わっていくのかを話し合い、①面会に行つて谷さんに手話で話しかけること、②病院にセンターの役割について知っていただき、谷

病院との連携を目指して

～谷 妙子様との関わりを通して～

その人に合った支援を

今回のことを振り返り、谷さんご自身やろう者についてスタッフの方々と話す

さんと病院のスタッフとのコミュニケーションがより確実なものになることを目標に取り組んでいくことになりました。

谷さんの回復を信じてセンターの職員もできるだけ面会に行き、病院のスタッフの方々とお話する機会を増やそうとした矢先に谷さんが亡くなられたという報告が届き職員一同本当に驚きました。

中であらう者の言葉である手話の大切さを理解していただきました。また、口話の伝わりにくさを実感する中で筆談やコミュニケーションカードを使ってより伝わりやすい工夫をしていただくことができました。

今後今回のようなケースに関わることもあるかと思えます。それぞれに合った支援のあり方を考え、ろうあ協会や手話サークルにも協力していただき、そして病院スタッフやヘルパーさんなど誰もが手話で話せるような社会環境を作っていくと思います。(竹内こ)

スマホやネットに潜む危険。

仕組みを知って被害を防ごう

～第4回社会生活教室～

中川原高齢者・障がい者地域ふれあいセンター



▲関心が非常に高く、質問が相次ぎました。

8月12日(水)第4回社会生活教室は「スマートフォンやネットに潜む危険」というテーマで兵庫県警サイバーパトロールモニターをされている嶋田亜紀氏を講師に迎えお話しいただきました。スマートフォンで手軽にインターネットに繋がる便利な社会になりましたが、その反面、個人情報流出や詐欺に遭いやすいという危険も伴います。

しかし、仕組みを知ると危険を回避できるということを詳しくお話いただきました。参加者の斉藤よし子さんは「使い方が分からないまま使っていてはもったいない。自分も含め使いこなしてない方もたくさんおられるようでした。マナーを守り危険かどうかの判断ができる知識をもっと増やしたい。」と感想を述べられました。(楠本)

南あわじ市賀集の小屋

収穫後の状況



出荷前の状況



丹波黒豆の栽培状況



大納言小豆の栽培状況

5月下旬に玉ねぎを収穫し玉ねぎ小屋(畑の真ん中に玉ねぎを吊るす小屋があちこちに立っていて淡路島特有の風景です)に吊るし、乾燥と熟成をさせてきました。農作業班の仲間は、毎日玉ねぎの根を切り、又きれいに拭く作業を暑い中汗びっしょりになり頑張ってきました。そして、随時皆さんの注文に応じて出荷発送してきました。

おのころの家

玉ねぎ後の植え付け (黒豆・小豆)

中川原高齢者・障がい者地域

ふれあいセンター



〒656-0002 兵庫県洲本市中川原町中川原 222-2



出荷発送前の作業状況



出荷発送後、在庫が無くなる

8月21日でやっと在庫もなくなりすべて出荷することができました。「しんどかった、長かったな、暑かった、重かった腰が痛いわ…」と仲間はやっと終わった充実感に笑顔で浸ってきました。

玉ねぎ収穫後の畑には7月中旬に丹波黒豆5アールと丹波大納言小豆10アールに種まきをしました。7月末の台風で畑が水に浸かり黒豆1/3が腐ってしまいました。今はすくすくと育ち、お正月に皆さんに利用していただくとうと手入れを頑張っています。(藤崎)

サマーボランティア体験スクールに参加して

8月7日と17日、2日間とも午前中だけですが、ボランティア体験をさせて頂きました。有難うございました。

おのころの家に伺いするのも初めてだったので、どこから入るかどなたにお声を掛ければよいのかもわかりませんでした。職員の方が気づいて下さり助かりました。

7日は巖さんに箱折りを教えて頂き、敏速丁寧を心がけて箱を折っていましたが、私が折っている物より難しい箱を巖さんは何倍も速く綺麗に折っていて感動しました。17日は雑巾作りをしている方々に糸を通したり、会話の内容を筆談で伝えるお手伝いをさせて頂きました。皆さん楽しく冗談を言ったり褒め合いながら作業されていて、いい雰囲気だと感じました。17日で終わりだったので、帰りに巖さんが作られた素敵なお茶を購入手して1つは母へプレゼントして、もう1つは私が化粧ポーチにして愛用しています。お気に入りです！私は手話を勉強中なので、もっと手話で皆さんとお話しできたらうれしかったです。が、手作業しながらなので、私の手話力では難しかったです。

これからも手話の勉強を続けて、次また機会があれば再チャレンジさせて頂きたいと思っております。それと今回あまりおのころの家についてのお話をじっくり聞く機会がなかったので、次回は色々お話を伺って質問したり施設内を見学できたら嬉しいなあと思っております。その時はどうぞまたよろしくお願ひ致します。

お忙しい中受け入れて下さり、本当に有難うございました。

(塚田 貴子)

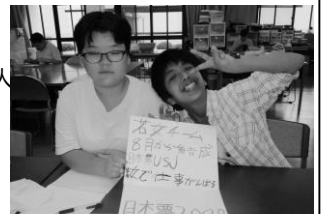
『若女班』 作業グループ結成

「淡路島玉ねぎ」でおのころ農業班の存在を皆さんご存知かと思いますが、このほど新たに作業グループが結成されました。その名も『若女班』！！新規グループに所属する仲間同士が相談してこの名前に決めました。メンバー全員が10~30歳代の女性だから、という理由だそうです。

「にんたまジャム」の販売に向けた商品開発を主な作業としながら、仲間同士で相談して様々なことにチャレンジしていきたいと思っております。今まさに一人ひとりの夢の実現に向けて翼を広げ羽ばたきました。

今後実年齢は???でも『心もパワーも若女!』な仲間もメンバー入りしていく予定です。

- 若女班の皆さんと一緒に頑張りたい。(今谷友香)
- 自分達で相談して考えた商品を販売したい。お金を貯めて若女班でUSJに行きたい。(西端友望)
- お店で販売したい。買い物に行きたい。色々な物を作って販売したい。若女班で伊丹空港も見学したい。(濱野尚美)
- 料理をしたい。カフェを開いて販売で4人で店員として働きたい。(伊月佑和)



みなさん、どうぞよろしくお願ひします。

受講中も、当所の仲間の顔が次々と浮かび、Aさんはこんな能力があるからこの支援方法がいいかな? Bさんの希望は〇〇って言うていたな。そのためにこんな進め方をしたら実現に近づけるかな? と思いつながら早く現場に入りたくまりました。また、この研修は様々な職業の人が受講されていて、お互いの現場での支援方法や悩み等、情報交換も盛んに行われ良い刺激になりました。研修後は学び得たものを意識して現場に生かしながら、日々の支援に取り組んでいます。(支援員 樋口)

SSTファーストレベルの

研修に参加して

(7/25 ~26 神戸市兵庫民会館)

この程、SST(社会生活技能訓練)ファーストレベルの研修を受けてきました。

近年、おのころの家では聴覚障害に限らず、色んな障害の方が通所されています。当然、ひとり一人への支援方法も違います。発達障害や知的障害、精神障害のある人がSSTを通じて自分の希望する生活を実現するための「生きる力」を高められ、自立を支援するのにこの方法が広く活用されるのが期待されています。障害の程度や特性など個人を把握し、本人の希望、自己選択の自己決定を尊重し実現のための支援が進められます。

続々・地域を語る 中川原むかし話

かるた 口説き

No.14

北岡 肇

① 松栄寺

ためきのやさしい

思いやり

淡路ふくろうの郷の玄関から西の山々を眺めると、集落から離れた小高いところにお寺さんが見えます。鳳来山・松栄寺です。この松栄寺にまつわる昔話です。

むかし松栄寺の裏山に、とてもやさしいタヌキが住んでいました。和尚さんが朝のお勤めをするときには本堂の近くまでやってきて、和尚さんのように手を合わせ、いっしょにお勤めをして山へ帰って行きました。

和尚さんとはときどき顔を合わせ仲よく暮らしていました。

ところがある日のこと…

朝のお勤めのとかがきても和尚さんが現れない。「どうしたことかなあー」と首をかしげていました。

次の日も和尚さんは本堂へきませんでした。心配でたまらないタヌキさん。

そおーつと和尚さんの居間をのぞいて見ると、カゼでも引いたのか、熱でも出たのか、ふとんをかぶって寝ていました。心配でたまらないタヌキさん。「和尚さんが大変だ…、何とか和尚さんを…」と思いあげく、ここは一番とばかりに本性を現わし下の街道筋へと行って、和尚さんの好きな食べ物を化かして取ってきました。

そして、そおーつと和尚さんの枕もとへやってきて「和尚さん〜、これを食べて一刻も早く良くなって〜」と口には出ないけど、ご馳走を置いてスコスコと山へ帰って行きました。

それを見ぬいていた和尚さん「すまない〜、お前にまで気をつかわして悪いことをさせてしまった。すまない〜」と手を合わせ涙を流していただき元気を取り戻しました。

そして次の日、和尚さんのお勤めが始まると、いつものように本堂の近くまできて「よかった〜」と手を合わせ、和尚さんといっしょにお勤めをして山へ帰っていきました…。

松栄寺・タヌキのやさしい思いやり
これで おしまい

第10回ふくろうふれ愛まつり ボランティアの募集

日時：平成27年10月25日（日）9時～16時
場所：特別養護老人ホーム 淡路ふくろうの郷
内容：入所者の付き添い(模擬店・舞台発表)、企画のお手伝い(子ども企画・文化展等)、着ぐるみ・その他 ※お申込みいただいた方を振り分けます。特に希望があれば、お申し出ください。(ご希望に添えない場合もありますので、ご了承ください。)



毎年1000名を超える参加をいただいております!! 模擬店や舞台発表も多数あります。入所者と一緒に楽しみませんか!! たくさんのご協力をお待ちしております!! ボランティアを希望される方は、申込用紙に記入のうえ、淡路ふくろうの郷に FAX(0799-25-8551)でお申込み下さい。

▲地域交流委員のみなさま作のかかし達がお出迎えます。

備蓄食炊き出し訓練



不備が課題となりました。(防災委員)

8月20日に備蓄食の炊き出し訓練を行いました。全ユニット30分以内に作り上げられました。が、ユニット間の協力体制の不備が課題となりました。

作品紹介

8月11日 絵手紙



ゴーヤとナス
おいしそうに描きました
松崎 恵子 様 (80歳)

スイカ割り

8月25日スイカ割りを行いました。入居者1人ひとり順番で手にした棒で挑戦しました。昔したことがあり「任せてけ!」と気合を入れてい

